



「永遠の愛をもって、わたしはあなたを愛した。それゆえ、わたしはあなたに、誠実を尽くし続けた。おとめイスラエルよ。わたしは再びあなたを建て直し、あなたは建て直される。(エレミヤ 31:3~4)」



エターナル・ラブ・イスラエルは、日本国内でユダヤ人に福音を伝える働きです。

- 事務局：〒226-0014 横浜市緑区台村町 186 番地 TEL:090-8729-0856
- メール：eternalloveisrael@gmail.com ●ホームページ：<http://eli.holy.jp>
- 銀行口座：三菱東京UFJ銀行 武蔵新城市駅前支店 普通預金 0909009 エターナル・ラブ・イスラエル
- 郵便振り込み：00200-9-79214 エターナル・ラブ・イスラエル



代表：宮本 純子

☆「聖地画展」祝福されました☆



ハレルヤ！主の聖名を心から賛美いたします。

いつもお祈りと尊い献金でエターナル・ラブ・イスラエルを支えてくださり心から感謝致します。

去る10月4日～10日、アートフォーラムあざみ野ミニギャラリーにて、私にとって初となる個展「聖地画展」を開催しました。個展の開催は、長年の夢でした。

遠方からも大勢の方々が足を運んでくださいました。お越しくださったお一人一人に心から感謝致します。見に来てくださり、本当にありがとうございました。

「聖地画展」の様子を、映像クリエイターの大石氏のご協力を頂き、素晴らしいYouTube動画を作成しました。ホームページからも見る事が出来ますので、ぜひご覧ください。



会場では、絵の説明をしながら、伝道の良い機会が与えられました。神様に心から感謝致します。

コロナ禍でも福音をお伝えする機会をつくり、一人一人との出会いを大切にしたいと思います。

今の時代は、いつでも好きな時に見ることが出来るユーチューブや離れていても会えるZoomの時代なので、一人のユダヤ人ユーチューバーが救われるように祈っています。その影響力は、大きいからです。

私も今後も頑張っていりますので、よろしくお願い致します。



<https://youtu.be/GYMneu0YoGA>

☆イスラエルからのメール☆

エターナル・ラブ・イスラエルのホームページを見てくださったイスラエル人から下記の励ましのメールが届きました。神様に心から感謝致します。これからもホームページやフェイスブックなどが用いられますようにどうかお祈りください。

「はじめまして。エズレラと申します。ネットでEternal Love Israelを見つけて 本当に感動です。絵もとても素敵です。イエシュアの名でEternal Love Israelを祝福します。」

☆秋のバスツアー☆



去る10月24日、日本イスラエル親善協会主催の恒例「イスラエル人と行く秋のバスツアー～紅葉の日光、中禅寺湖～」に参加、日光へ行ってきました。紅葉と共に華厳の滝と日光東照宮が美しかったです。

イスラエル大使館一等書記官シャイン・バラク広報官のご家族とブロムバーグ・イドー政治部参事官のご家族など9名のイスラエル人と日本人合わせて24名参加しました。

私にイーディッシュ語を教えてくださいました春遍雀来（ハルペン・ジャック）先生とは、27年ぶりの再会でした。

ハルペン・ジャック先生は、日本に40年以上在住しています。久しぶりに懐かしいお話が出来て嬉しかったです。

移動のバスの中で、私は自己紹介で証しさせて頂きました。私にとってのイスラエルを熱く語らせて頂きました。ある方が、日ユ同祖論について熱く語られたので、在日ユダヤ人の方々と日ユ同祖論について意見交換が出来ました。とても貴重な時間でした。日ユ同祖論の話の中で、日本の能を大成した人物は、観阿弥（かんあみ）ですが、カンアミのヘブライ語の意味は「ここに私の民」です。息子の名は、世阿弥（ぜあみ）。ゼアミのヘブライ語の意味は「これは私の民」であることなどを聞いて、日ユ同祖論については、私は中立的立場ですが、「もしかしたら日本人とユダヤ人には同じDNAが流れているかもしれない。」と思うと感極まりました。他には、日本人とユダヤ人の違い「ユダヤ人は常に質問し、討論することが重要であり、答えを出すということではない。」など話を聞くことが出来ました。道中が混雑して殆どバスの移動でしたが、13時間のバスの旅は、とても楽しい素晴らしい旅でした。



☆仮庵の祭り☆

今年は、コロナの感染拡大の影響のため、シナゴークでの集会の人数制限や大多数での会食が出来ないので、祭りの祝い方も昨年と状況が違います。

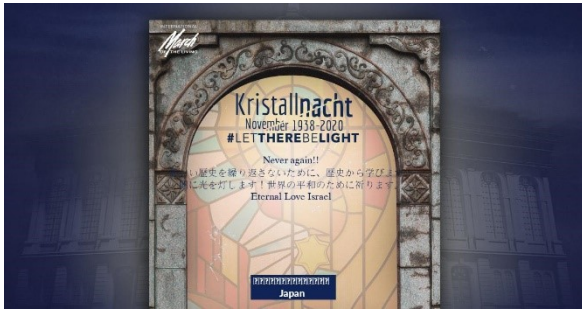
9月18日の日没から20日、ユダヤ新年（ローシュ・ハシャナー）は、各家庭でお祝いました。ユダヤ暦5781年がリンゴのように丸くて蜂蜜のように甘い年になるようにと、リンゴに蜂蜜を浸して食しました。

9月27日、大贖罪日（ヨム・キプール）は、ユダヤ人と共に礼拝し祈りました。エルサレムに神殿があった頃は、年に一度のヨム・キプールの日に、牛を捧げ、罪の赦しの代価としていました。神殿がない現代は、鶏を頭の上でふりかざして（カパロット）、それを罪の代価にしています。日本のシナゴークでは、廊下で、白い衣を着た牛の役の人をラビが鞭打つふりをして罪の代価にしました。

10月3日、仮庵の祭り（スコット）もユダヤ人と共に礼拝し、仮庵で過ごしました。ユダヤの祭りを守ることを神様に心から感謝します。



☆ユダヤ人を励ますために☆



1938年11月9日、ナチスがドイツとオーストリアの1,400以上のシナゴグやユダヤ人機関を燃やし、ポグロムが始まりました。この事件は、クリスタル・ナハト（水晶の夜）と呼ばれています。

クリスタル・ナハト記念式典を主催するMOL（国際ユダヤ人団体）は、反ユダヤ主義、人種差別、憎悪、不寛容との共通の戦いにおける連帯を呼びかけています。

毎年、11月9日の夜に光を点灯し続けるために世界的なキャンペーンの一環として、人々に希望のメッセージと憎しみの暗闇に光を当てるというコミットメントを共有することを奨励しています。世界中から1,000件以上のメッセージの応募がありました。エターナル・ラブ・イスラエルもメッセージを送りました。

11月9日、クリスタル・ナハト記念式典が行われ、皆さまから届いたメッセージは、エルサレムの旧市街の壁に投影されました。この式典は、エルサレムポストのウェブサイトなどでも放映されました。反ユダヤ主義、人種差別、Covid-19の影の高まりを背景に、これらの団結の表現は、暗闇と憎しみに対して世界を照らすものになることでしょう。

☆映画「異端の鳥」に寄せて☆



この映画を推薦してくださった阿部さんに心から感謝致します。

「異端の鳥」は、少年の目に映るホロコーストの世界です。「異端なものは排除する」という人間の本质によって、ユダヤ人であるが故に少年は、残酷すぎる程に人に排除され、あまりに過酷な中を生き抜きます。原作のタイトルである「The painted bird」は、一羽の鳥に色を塗り、空に羽ばたかせると同じ仲間の鳥たちが違う種類の仲間と思ひ込み、色を塗った鳥は攻撃されて、血だらけになって空から落ちてしまう事柄からつけられています。

私も中学、高校時代の6年間、激しいいじめに遭ってきました。それは、転校生というよそ者だったからであり、異質な存在だったからです。例えば、自分たちのクラスの中や、街の中、隣近所であっても、国籍の違いや人種の違いなど、人間は、自分たちと違う異質なものがあれば偏見、差別、攻撃、排除するという本質があるのだと、この映画を通して学びました。

私は、イエス様も普通の人間とは違う神の子であるという異質な存在であるが故に、人々から嘲られ、鞭打たれ、十字架にまでかけられてしまったのではないかと、ふと思いました。

人間は、残酷な罪人に過ぎないのですが、それでも神様は、全人類を救うためにそのひとり子であるイエス様をこの地上にお送りくださいました。神様の大きな愛を心から感謝致します。

イエス様を信じて救われる魂が起こされるように心からお祈り致します。

☆挨拶☆



愛するみなさま、今年もエターナル・ラブ・イスラエルの働きのためにご支援とお祈りをくださり、本当にありがとうございました。心から感謝申し上げます。どうか素晴らしい主の祝福と愛で満ちあふれるクリスマスとハヌカをお過ごしください。そして、輝かしい2021年をお迎えください。来年もエターナル・ラブ・イスラエルは、主と共に歩んでまいりますので、よろしく願い申し上げます。来る新年も愛するみなさまの上に主の祝福が豊かにありますよう心よりお祈り申し上げます。

☆祈りのリクエスト☆

「エルサレムの平和のために祈れ。『おまえを愛する人々が栄えるように。おまえの城壁のうちには、平和があるように。おまえの宮殿のうちには、繁栄があるように。』」(詩篇 122:6~7)



☆神様の深遠なるご計画の中で特別に選ばれ、愛されているユダヤ民族、平和の町であるエルサレム、イスラエルの平和が守られ、神様の計画と御心が成りますように。

☆イスラエルの国政、国内情勢のためにお祈りください。

☆世界中の政治的指導者たちが、神様からの正しい知恵と判断力が与えられ、神様の御心に従って政治を進める事が出来ますように。

☆イスラエルと日本との国交が更に深まりますように。

☆新型コロナウイルスの感染拡大が世界中から一刻も早く収束しますように。コロナ禍の中で、イエス様を信じて救われる魂が世界中で多く起こされますように。神様のご介入と助けを切に祈り求めます。

☆コロナ禍でも伝道する機会が与えられますように。

☆世界中のユダヤ人に福音が伝えられ、イエス様を信じて救われますように。

☆イエス様を信じているメシアニック・ジューの一人一人の信仰を強めてくださり、イスラエルがリバイバルされますように。

☆在日ユダヤ人や訪日ユダヤ人にトラクトも用いられ、多くのユダヤ人がこの日本で、イエス・キリストに出会い救われますように。その為に私達が情熱を持って、神様の愛でおもてなしをし、伝道する事が出来ますように用いて下さい。又、ユダヤ人伝道の重荷を持つ後継者たちが起こされますように。

☆日本のクリスチャンの霊的な目が開かれてユダヤ人伝道について正しく理解し、イスラエルの回復のために神様の御心に従って祈っていくことが出来ますように。

☆ユダヤ新年5781年 冬のユダヤの祭り☆



☆12月10日~18日 ハヌカ(宮潔めの祭り、奉獻の祭り)

ハヌカは、ヘブライ語で「奉納」「献堂」という意味です。ハヌカの祭りは、ユダヤ暦キスレブ月の25日から8日間祝われます。セレウコス朝(312-164 B.C.)時代にシリアを支配するギリシャ軍は、神殿を占拠しました。

164 B.C.ユダ・マカビーたち指導者の下、ユダヤ民族は、勝利し、聖地エルサレムを奪還し、神殿を再び奉獻することが出来ました。ハヌカは、少数であっても信仰を持って戦い、エルサレムを奪還し、神殿を再び奉獻した事の奇跡を記念した祭日です。神殿には、神聖な油壺が一つ大祭司の封印のまま見つかりました。油は、わずか1日分にも満たなかったのですが、なんと8日間も燃え続けたのです。ハヌカは別名、「光の祭り」とも呼ばれます。

ハヌカには、神殿にあった7枝のメノラーではなく、8枝ともう1つの蠟燭を灯す枝の9本の燭台(ハヌキヤ)に、1日ごとに1本ずつふやして点火していき、8日目に全部が点るようになります。点火用のろうそくは、「シャマシュ」という呼び名がついています。灯りは「希望」と「献身」を象徴しています。一晩ごとに蠟燭の灯りをともしながら、祖先から受け継がれてきたように、ユダヤ民族の未来の世代のために、伝統を持続させることに自身を捧げるのです。

2020年12月冬号発行(季刊誌)